

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25463600

研究課題名(和文)統合失調症患者に対する看護介入としての心理教育の長期効果検証

研究課題名(英文)Verification of long-term effects of psychoeducation as nursing intervention in patients with schizophrenia

研究代表者

河野 あゆみ (KOHNO, Ayumi)

大阪市立大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：20401961

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、統合失調症患者に対する看護師版心理教育プログラムの効果を服薬アドヒアランスに焦点化して検証することである。精神科急性期病棟に入院する患者に、看護師版心理教育プログラムを実施し、その短期効果と長期効果に関する調査をした。対象者は、男性29名、女性35名、計64名であった。短期効果の検証は、Wilcoxon符号付き順位検定を行ったところ、介入群のみ服薬意識と疾病服薬知識が介入前に比べ介入後に有意な改善を認めた。しかしながら、2要因の分散分析では、群間と時間の交互作用を認めなかった。長期効果に関する調査からは、対照群に比べ介入群の退院から再入院に至る平均期間は長いことがわかった。

研究成果の概要(英文)：The principal aim of the present study was to verify the effects of a nursing psychoeducation program in schizophrenic patients while focusing on medication adherence. We conducted a nursing psychoeducation program for patients admitted to an acute psychiatric ward and conducted a survey on the short-term and long-term effects of the program. The subjects of the present study comprised 29 men and 35 women (total of 64 subjects). Regarding short-term effects, the results of Wilcoxon signed-rank test revealed that significant improvements were observed for medication perception and disease medication knowledge after intervention compared with before intervention only in the intervention group, but the results of two-way factorial analysis of variance revealed no interaction between the groups and time. The investigation on long-term effects showed that the mean duration from discharge of the intervention group to re-hospitalization was longer than that of the control group.

研究分野：医歯薬学

キーワード：心理教育 統合失調症 精神看護

### 1. 研究開始当初の背景

本格的に地域医療へと移行し始めた精神医療分野は、患者の再発防止および上質な地域生活の維持、という課題に直面している。この背景には、1年以内に再入院する患者の7割以上が自己判断による服薬の中断を主たる原因として再発しているという事実がある (Kissling, 1991)。

近年では、この課題を克服する心理社会的治療として、患者の服薬や病気に関する意識の向上および再発予防等を目指す心理教育が、精神医療の場に認知され実践されるようになってきた。しかし心理教育は、医師、看護師、薬剤師などの多職種によるチームで実施することを標準としているため、民間の精神医療機関が主流である本邦においては、半ば恒常的なマンパワー不足や院内教育システムの不備等により、多職種で心理教育を実施するには多くの困難が伴う (木村ら、2004)。そこで、看護師版心理教育プログラム (Nursing Psychoeducation: NPE) を開発した (松田、2007)。NPE に参加した患者の介入前後のインタビュー調査によれば、患者は、NPE に参加することで他者や自己との相互作用を通して、服薬と病気を受け止めていくことが明らかになった。

次に我々はこの NPE を精神科臨床に普及すべく、精神科病院にアウトリーチし看護師に NPE の実践指導を行い、学会のシンポジウムあるいはワークショップを通して心理教育の有用性および実践方法を発信してきた。そのような活動を通して、精神科臨床に心理教育を導入するには、経営者や医師の理解を得ることが最重要課題であり、この課題を克服するには心理教育の有用性に関する複数の頑強なエビデンスを提示することが、重要な戦略になることがわかってきた。

### 2. 研究の目的

本研究における目的は、統合失調症患者に対する看護師版心理教育プログラムの効果を服薬アドヒアランスに焦点化して検証することである。

### 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、第一段階として研究協力施設の募集と看護師版心理教育の実践ならびに調査の準備を行い、第二段階として NPE の実施と短期効果を測定し、最後に第三段階として長期効果を測定した。

具体的な方法は以下の通りである。

#### 【第一段階】

研究協力施設ならびに NPE 実践トレー

ニングを受ける看護師の募集を、関東・北陸・近畿地方に限定して行った。調査の同意が得られた施設に、研究者が出向き、NPE 実践トレーニングおよびサポートを実施した。

#### 【第二段階】

(1) 対象者の選定：第一段階で協力を得られた

た精神科病院に入院中の統合失調症患者のうち、1時間程度のセッションに参加できる、言語的コミュニケーションが可能、任意入院または医療保護入院、20歳以上、本研究の趣旨を理解し同意した者を対象とした。対象者の選定は、対象施設の看護師の協力を得て主治医が行った。

対象者を、介入群と対照群に割り付けた。介入群は NPE を受け、対照群は通常のケアを受けた。本研究では、近いうちに退院の見通しのある患者を介入群に割り付けた。

(2) 介入方法：介入は、週1回、60-90分

間  
全4回、クローズドグループで行った。介入者は、NPE のトレーニングを受けた二人の看護師 (リーダー、コリーダー) であった。

(3) 調査方法：対象施設の看護師が、NPE 実施前後に下記の尺度を用いて調査を実施した。

服薬：服薬意識尺度 [MPS] (松田、河野他 2012) 服薬アドヒアランスに関する13項目で構成し、4段階で評価。病気と服薬の知識：疾病薬物知識度調査 [KIDI] 精神症状と精神科薬物療法に関する2つの下位尺度20項目で構成され、3肢択一で回答。

(4) 倫理的配慮：調査開始に先立ち、研究者の所属機関および対象施設の倫理審査委員会の承認を得た。対象者には、研究の目的・方法・参加の自由・プライバシーの保護について書面と口頭で説明した後、同意書に署名を得た。

(5) 分析方法：短期効果の検証には、服薬意識および病気と服薬の知識における NPE の効果を評価するために、Wilcoxon の符号付き順位検定と繰り返しのある2要因分散分析を用いた。解析には、IBM SPSS 20.0J for Windows を使用した。

#### 【第三段階】

(1) 対象者：第二段階の対象者のうち、再入院状況に関する調査にも同意を得られた者とした。

(2) 調査方法：退院後1年後の再入院状況について、対象施設の看護師の協力を得て調査した。

(3) データの分析：対象者を介入群と対照群に分け、退院後から再入院までの期間の平均および標準偏差を算出した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 対象者の属性

本研究の対象者は、男性 29 名、女性 35 名の合計 64 名であった。対象者の平均年齢は、40.19 ( $\pm 13.47$ ) 歳であった。

##### (2) 短期効果 (実施前後の変化)

群内の得点の変化について、介入群は全ての尺度において介入前よりも介入後の方が改善した。

Wilcoxon 符号付き順位検定の結果、MPS 下位尺度：副作用の懸念については、介入群のみ介入後に有意な改善が認められた ( $Z=2.31, p < .05$ )。MPS 総合得点については、介入群のみ介入後に有意な改善が認められた ( $Z=2.17, p < .05$ )。KIDI 下位尺度：疾病については、介入群のみ介入後に有意な改善が認められた ( $Z=2.42, p < .05$ )。KIDI 下位尺度：薬物については、介入群のみ介入後に有意な改善が認められた ( $Z=2.54, p < .05$ )。KIDI 総合得点については、介入群のみ介入後に有意な改善が認められた ( $Z=2.92, p < .05$ )。

2 要因分散分析の結果、介入前後で群と時間の交互作用がみられた項目はなかった。時間の主効果がみられた項目は、KIDI：下位尺度：疾病 ( $F(1,62)=6.84, p < .05$ )、KIDI 下位尺度：薬物 ( $F(1,62)=7.57, p < .01$ )、KIDI 総合得点 ( $F(1,62)=7.84, p < .01$ ) であった。

##### (3) 長期効果 (再入院状況)

対照群の退院から再入院までの平均日数は 281.50 ( $\pm 167.00$ ) 日であったのに対し、介入群の平均日数は 325.22 ( $\pm 87.64$ ) 日と、対照群に比べて介入群の期間が長かった。

##### (4) 考察

短期効果の Wilcoxon 符号付き順位検定の結果においては、服薬の副作用に関する意識、および病気と服薬の知識に関しては、介入群のみ介入前に比べ介入後に有意な改善が認められたが、2 要因の分散分析の結果においては、群間と時間の交互作用が認められなかったことから、NPE が患者の服薬意識と知識の改善に貢献する可能性を示しているが、まだ現状ではその効果は明確ではないことを示していると考えられる。また長期効果においても、NPE が再入院状況に効果をもたらす可能性があることが考えられるが、その効果は明確ではなかった。

今後も調査を継続し、再評価をする必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

Willingness to interact after

Therapeutic Recreation in a patient with schizophrenia., Kohno A., Matsuda M., Archives of psychiatric nursing, 査読有, 32 (1), 12-18, 2018. Effects of the Nursing Psychoeducation Program on the Acceptance of Medication and Condition-Specific Knowledge of Patients with Schizophrenia. Matsuda M., Kohno A., Archives of psychiatric nursing, 査読有, 30 (5), 581-586, 2016.

Japanese Psychiatric Nurses' Attitudes toward EBP: Association with Needs for Learning Psychoeducation Practices. Matsuda M., Kohno A., European Journal for Person Centered Healthcare, 査読有, 4 (2), 352 -358, 2016.

Development and evaluation of a psychoeducation practitioner training program (PPTP). Matsuda M., Kohno A., Archives of psychiatric nursing, 査読有, 29 (4), 217 -222, 2015.

統合失調患者に対して心理教育を行う看護師が意図する技に関する基礎研究 松田光信, 河野あゆみ, 精神科看護, 査読有, 41 (1), 42 - 49, 2013.

[学会発表](計 13 件)

統合失調症患者に対する看護師版心理教育の有用性検討～服薬に関する意識ならびに知識の変化～. 河野あゆみ, 松田光信, 第 27 回日本看護科学学会学術集会 (仙台) ., 2017.

心理教育実践者の姿勢を構成する要素の検討. 松田光信, 河野あゆみ, 第 27 回日本看護科学学会学術集会 (仙台) ., 2017.

Changes in the willingness of a schizophrenic patient participating in therapeutic recreation to interact with others—Analysis using the theory of symbolic interactionism. Kohno A., Matsuda M., ISPN 19th Annual Conference (Baltimore, Maryland, USA) ., 2017.

Factors influencing the awareness of medication adherence among inpatients with schizophrenia in acute psychiatric units in Japan - A basic study with a focus on patients' participation in psychoeducation. Matsuda M., Kohno A., ISPN 19th Annual Conference (Baltimore, Maryland, USA) ., 2017.

Developing a blended learning-based system to nurture nurses with psychoeducation skills- trial use of

an original e-learning system., Matsuda M., Kohno A., 5th European Conference on Mental Health (Praha, Czech)., 2016.

Developmental process of a therapeutic recreation program to enhance the motivation of long-term schizophrenic inpatients to interact with others.. Kohno A., Matsuda M., 5th European Conference on Mental Health (Praha, Czech)., 2016.

統合失調症患者本人に対する心理教育の効果～服薬に関する知識とアドヒアランスに焦点をあてて～. 松田光信, 河野あゆみ, 第35回日本看護科学学会学術集会(広島), 2015.

セラピューティックレクリエーションに参加した統合失調症患者Z氏の他者と交流する意欲の変化. 河野あゆみ, 松田光信, 日本看護研究学会第41回学術集会(広島)., 2015.

Evaluation of a psychoeducation practitioner training program (PPTP): a one-group, pre-test/post-test study. Matsuda M., Kohno A., Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International 43rd Biennial Convention (Las Vegas, Nevada, USA)., 2015.

Development and evaluation of the psychoeducational practitioner training program (PPTP). Matsuda M., Kohno A., Kawasaki E., ISPN 16th Annual Conference (Greenville, NC, USA)., 2014.

長期に入院する統合失調症患者へのセラピューティックレクリエーションプログラムの実践と評価. 河野あゆみ, 町浦美智子, 松田光信, 第34回日本看護科学学会学術集会(名古屋) 2014.

Relationship between the characteristics of psychiatric nurses' EBP attitude and their perception of psychoeducation in JAPAN. Matsuda M., Kohno A., Kawasaki E., Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International 42nd Biennial Convention (Indianapolis, Indiana, USA)., 2013.

Findings obtained by students undergoing training in psychiatric nursing and their assessment - Learning by students who had undergone psychiatric nursing training and their recognition of educational methods. Kawasaki E., Matsuda M., Kohno A., 3rd World Academy of Nursing Science (Seoul, Korea)., 2013.

〔図書〕(計1件)

1. 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術(第2版)山本勝則、松田光信、藤井博英、守村洋、河野あゆみ、他17名(担当:254-287, 共著), メヂカルフレンド社 2015年04月, 全317頁.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

河野あゆみ (KOHNO, Ayumi)

大阪市立大学大学院・看護学研究科・准教授

研究者番号: 20401961

(2)研究分担者

松田光信 (MATSUDA, Mitsunobu)

大阪市立大学大学院・看護学研究科・教授

研究者番号: 90300227